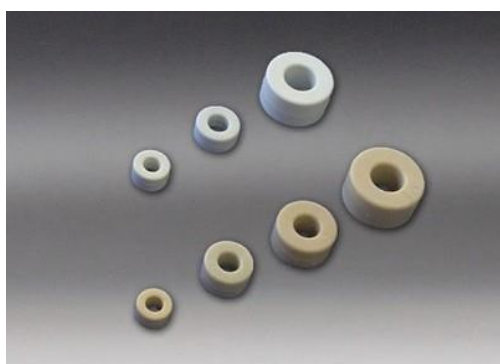


アモルメットの導入(1)

—仕様と特徴—

1. 始めに

[M氏邸訪問記\(2016.10.22\)](#)で報告しましたが、M氏は中村製作所の[アモルメットコア](#)によるチューニングを SACD/CD プレイヤーのアナログバランス出力ケーブルと電源ケーブルに使用されており、アモルメットを搭載した電源ボックス PLC-02 を追加されています。



2. アモルメットの製品仕様と特徴

M氏邸で実際にその効果が確認できたことから、いろいろ調べて見ましたところ、ステレオ誌 10月号、11月号と 12号やオーディオアクセサリ-2016 冬号に記事があり、上記メーカーのサイトからも情報が得られました。

Amormet™(アモルメット)コアについて

近年はあらゆる電子機器、電気製品がノイズを出しています。このノイズは電源環境を著しく汚しコンセントの電源から各機器に侵入すると共に電磁波となってノイズをまき散らしています。

ノイズが大きいと他の機器が誤作動を起こしたりラジオやテレビにノイズが入ったりするので、ノイズを発生する機器は国等で規格が決められていて機器ごとにある程度の小ささに収まるようになっていきます。それにもかかわらず実際はラジオを鳴らしながらパソコンに近づけるとピーピーガーガーと大きなノイズが聞こえるようにオーディオシステムにとっては有害なノイズがあらゆるところにたくさん存在しています。

通常、目で見ることもしることもできないこの電気ノイズはオーディオシステムに侵入すると高い周波数なのでハムのようにブーンと聞こえたりはしないのですが、音楽再生のグレードを著しく低下させてしまいます。

オーディオシステムに進入するノイズを防ぐフィルター

従前より電子機器用のノイズを防止するフィルターはたくさんの物が作られ販売されていますが、そのほとんどはオーディオ用ではないため電気的特性とコストを重視して作られたもので音質は考慮されていませんでした。

これらのノイズフィルタは多くの熱心なオーディオファンに長年にわたってテストされてきました。主として電源用が多いのですが使われている部品、とくにフェライトコアの音響特性（音質的な特性）が著しく悪いのでノイズが取れたはずなのに音質が低下してしまい、多くの人に「ノイズフィルタを入れると音が悪くなる」と言われ、その悪い評判はオーディオ界に広く行きわたってしまい今日におよんでいます。

このような状況の中、オーディオ用アイソレーショントランスの製造をしていてノイズを防止した時の音の良さを知っている私共は、トランスで音が良くなるのはわかっていたのですが電源トランスと違いオーディオ用はコストがかかるのと、お客様から「音は良いけど重たい、もう少し軽いのが欲しい」との声も頂いていたので別の方法でノイズを取ることはできないものかと研究開発作業をしてきました。

その中で沢山のノイズ除去フィルタを製作しては試聴テストを繰り返してきましたが、わかった事はフィルタに使用するパーツの電気的特性と音響特性の重要性でした。ノイズを防止するフィルタは主にコアにコイルを巻いたチョークコイルとコンデンサで作られますがオーディオ用としては、除去したいノイズに合わせた電気的特性とすぐれた音響特性を併せ持つパーツを使用する必要があります。

特にコアにおいては非常に多くの種類がありますが音質を考慮して作られたものは全くなく、長年にわたり産業用からオーディオ用までたくさんのコアを扱ってきた当社におきましても最適なものを見つけるのは大変難しいものでした。

そうしたなか、東静工業株式会社様の協力を得てオーディオ用ノイズフィルタを完成させることができました。このフィルターに使用されている特別に選ばれた音の良いコアが **Amormet™**（アモルメット）です。このコアを使用してノイズを防止しますと高音、低音の出方はもちろんのこと音楽の表現力や演奏者の表情、ライブ感等が著しく向上し原音はこんなにも素晴らしいものだったのかと実感されるはずです。

3. アモルメットの適用対象の選定

メーカー推奨の適用対象は、CD プレイヤー、DAC の出力コード等オーディオ機器間のラインケーブル（インターコネクトケーブル）、スピーカーケーブル、AC アダプターの DC 出力コードなどとなっています。

また、ステレオ誌の記事では USB ケーブルやアナログのセンタースピンドルにも採用されています。適用対象の選定の場合、注意することは孔径で、実際のケーブルと製品仕様の関係から調べてみると、径の大きいコネクター部分が分解できない構造になっているものが多く、適用対象に適合する製品を選択して試してみることにしまし

た。

以上